青垣

第49号

平成二十四年十二月一日発行

奈良県橿原市久米町

奈良県神社庁内

発行所　奈良県神道青年会

電話〇七四四―三四七三番

編集者　広報部

祝祭日には国旗を揚げましょう

会長挨拶

葛木坐火雷神社

宮司　持田照久

早くも奈良県神道青年会会長の重責を拝命して一年七ヶ月が過ぎ、その任期は余すところ数ヶ月に迫ってまいりました。

昨年度は、東日本大震災復興支援活動や台風被害を受けた天河神社への復旧活動に、理事役員会員を始め先輩諸兄より多大なご協力を頂きました事、衷心より厚く感謝申し上げます。

『被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、さまざまな形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であろうと思います。被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体（からだ）を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者とともにそれぞれの地域の復興の道のりを見守り続けていくことを心より願っています。』

天皇陛下の御言葉を胸に心を寄せ続け、復興へ向けての活動を展開して参りますので、今後も更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

扨、本年は古事記撰上千三百年の佳節にあたり、全国各地で記念事業等が盛んに行われております。この佳節に神武天皇御降誕の地「宮崎県」と、御創業の地「奈良県」の両県神道青年会が、『姉妹神青』を締結致しました。平成二十四年四月二十七日、神道青年全国協議会第六十四回定例総会に先立ち神社本庁に於いて神青協大野会長立ち会いのもと、史上初の「姉妹神青」を無事に結ぶ事ができました。

単位会・地区・神青協の諸事業諸活動に致協力していく事は申し上げるまでもありませんが、この御神縁のもと両県会員の交流と共に古事記や神話を学び、それぞれの教化活動、又奉務神社での教化活動に繋がればと思っております。

以前、私と同様に兼業されている先輩神職が「当時は仕事優先で神社も父親任せで、青年会にも参加していなかった。今から思うと参加しておけばよかった。」と仰ってました。

兼業で神社を護持運営していく事は非常に大変であると身を以て感じていますが、兼業神職だから半分だけ神職であればいいというものではなく、仕事があるからと半分しか出来なくてもいいという事でもありません。神職である以上は兼業や専業は関係なく、自身が研鑽を積んで成長し神社の護持運営又氏子崇敬者の教化育成に務めなければなりません。そしてそれには終着点はありません。

少子高齢化の中後継者不足も懸念される昨今、青年神職それぞれが今二度自身の人生や将来を見つめ直すべきであると強く感じます。若いうちから定期的な研修や講習への参加や同志との交流の機会を、少しでも早く少しでも長く持てるように、それを実践していく事も神道青年会の活動であると考えます。

来期の始めまで神道青年近畿地区連絡協議会の当番県は続き、再来年には当会創立五十周年の大きな節目を迎えます。

県内の青年神職が一致団結し、奈良県神道青年会の歴史を作り守り発展させてこられた先輩諸兄と共に、この大きな節目を迎えられるよう、今後共ご理解ご協力を切にお願い申し上げます。

神道に書籍なし。
天地をもって書籍とし、
日月をもって証明とす。

吉田　兼倶

第九回皇居勤労奉仕青垣奉仕団開催される

去る九月三日から七日までの五日間、当会主催の第九回皇居勤労奉仕青垣奉仕団が結成され、持田照久団長以下神青会員や各奉務神社の氏子崇敬者など三十二名が参加。九月はじめの残暑厳しい中での奉仕となったが、参加者各位の精進の賜物か一人も病気や怪我などにあうことなく喜びのうちに御奉仕することができた。

皇居勤労奉仕青垣奉仕団は、皇紀二千六百五十年を奉祝して平成二年に始まり途中、周年事業などの関係で間隔が開くことがあったが、近年はほぼ隔年で行なわれている当会の重要な行事の一つである。

青垣奉仕団初日の九月三日は、午前十一時に京都駅に集合。新幹線に乗り一路東京に向かい午後二時頃東京駅に到着。すぐにバスに乗り換え靖國神社へ向かった。靖國神社では正式参拝、引き続き遊就館を見学した。その後バスで浅草観光に向かったが、車中からは東京の新名所東京スカイツリーの見学、そして浅草寺を参拝して江戸情緒を満喫した。浅草を散策した後は、奉仕期間中の宿泊所となる上野の水月ホテル鷗外荘に移動して、宿自慢の温泉に入り明日からの奉仕に備えた。

二日目からいよいよ実際の奉仕が始まり、九月四日は午前七時半にホテルを出発。八時過ぎに皇居に到着し、桔梗門前で皇宮警察の点呼を受けて皇居内に参入。休憩所となる窓明館で宮内庁職員から事前の説明を受け八時半から作業が開始となったが、初日と言うこともあり二重橋（鉄橋）で記念撮影。そして生物学研究所の周辺の清掃奉仕を行い午前の奉仕は終了。そして午後二時から蓮池待で天皇皇后両陛下の御会釈があり、昨年大きな被害が出た台風十二号被害状況などについて御言葉を頂戴し、その後蓮池濠周辺の除草作業を行って午後三

第九回皇居勤労奉仕青垣奉仕団　団員一覧

肩書	名前
団長	持田　照久
副団長	荒井　清志
団員	髙鉾　義嗣
団員	花房　兼輔
団員	高山　裕宇
団員	樋口　佳美
団員	後藤　照史
団員	篠　泰比呂
団員	笹治　利夫
団員	勝田　公代
団員	花村　沙羅
団員	安達　武一
団員	安達　由美子
団員	細川　好代
団員	西田　美千代
団員	飛鳥井　利枝
団員	梅本　みえ子
団員	中西　勢津子
団員	島　芙美子
団員	三宅　逸子
団員	中井　里子
団員	杉本　良子
団員	山田　黎子
団員	樋上　まゆみ
団員	渡邊　容子
団員	岡村　隆男
団員	花谷　芳江
団員	佐藤　雅子
団員	木島　敬博
団員	栗本　里子
団員	山口　その子
団員	堀　尚生

青垣奉仕団日程

●1日目　9月3日(月)

11時	京都駅乗車の方は新幹線改札前集合
11時17分	新大阪駅発（のぞみ120号）
11時33分	京都駅発（同上）
11時53分	東京駅着
14時30分	靖國神社着　記念撮影
15時	靖國神社正式参拝
	正式参拝後遊就館見学
16時30分	浅草観光
18時	宿舎着
19時	夕食（オリエンテーション・自己紹介等）
	入浴・就寝

●2日目　9月4日(火)

6時	起床・洗面
6時30分	朝食
7時20分	ロビー集合
8時	皇居着
8時30分	皇居勤労奉仕開始
15時30分	皇居勤労奉仕終了
16時30分	宿舎着
18時	夕食（日程説明等）
	入浴・就寝

●3日目　9月5日（水）

6時	起床・洗面
6時30分	朝食
7時20分	ロビー集合
8時	皇居着
8時30分	皇居勤労奉仕開始
15時30分	皇居勤労奉仕終了
16時30分	宿舎着
18時	夕食（日程説明等）
	入浴・荷物整理・就寝

●4日目　9月6日（木）

6時	起床・洗面
6時30分	朝食
7時20分	ロビー集合
8時	赤坂御用地着
8時30分	赤坂御用地勤労奉仕開始
15時30分	赤坂御用地勤労奉仕終了
16時30分	宿舎着
18時	夕食（懇親会）
	入浴・荷物整理・就寝

●5日目　9月7日（金）

6時	起床・洗面
6時30分	朝食
	朝食後各荷物は会議室へ
7時20分	ロビー集合
8時	皇居着
8時30分	皇居勤労奉仕開始
15時30分	皇居勤労奉仕終了
16時30分	宿舎着宿舎着（宿舎にて着替）
17時15分	宿舎発
17時45分	東京駅着
18時30分	東京駅出発（新幹線のぞみ119号広島行）
20時50分	京都駅着、解散
21時6分	新大阪駅着
21時30分	京都駅発　近鉄特急　橿原神宮前行

時半過ぎに皇居を退出した。

翌九月五日は終日江戸城の面影が残る皇居東御苑。そして九月六日は園遊会が行なわれる赤坂御用地の清掃奉仕を行い、この日の午後には東宮御所で皇太子殿下の御会釈があり、奉仕者を代表して持田団長の先導のもと万歳三唱が行なわれた。最終日の九月七日午前中は一般参賀が行なわれる宮殿の周辺、午後からは最後の奉仕場所となる窓明館・蓮池待合所館内の清掃を行い宮内庁庁舎で御下賜品を頂戴して、午後三時半頃皇居をあとにした。

この後は一旦ホテルに戻り入浴身支度を整えて、得難い経験ができた喜びと次回の奉仕団での再会を約しつつ、午後六時半東京駅で解散となりそれぞれ帰途についた。

平成二十四年度定例総会開催

去る四月二十五日橿原神宮貴賓館に於いて、持田会長体制二年目となる平成二十四年度定例総会が執り行われ、橿原神宮久保田昌孝禰宜、奈良県神社庁中川行夫事務局長を来賓としてお迎えし、会員二十五名が出席した。

総会では平成二十三年活動報告と決算報告、平成二十四年度活動計画と予算案が満場一致で承認された。

また、特に今年度は六年に一度となる近畿地区の当番県となることが決まっており、持田会長から一致協力して成功させようとの挨拶があった。

総会後は橿原観光ホテルへ会場を移し、懇親会が盛大に執り行われ、会員相互の親睦を深めた。

平成24年度　奈良県神道青年会　組織図

- 総会
  - 理事会
    - 会長　持田　照久
      - 事務局長　大月　智
        - 事務局会計　木村　克之
      - 副会長　石津　隆康
        - 広報部長　松井　保樹
          - 副部長　小林　義典
            - 部員　諸社会員
        - 渉外部長　多田　佳史
          - 副部長（兼任）　高鉾　義嗣
            - 部員　橿原会員
      - 副会長　花房　兼輔
        - 事業部長　荒井　清志
          - 副部長　一木　真守
            - 部員　春日会員
        - 組織教化部長　道上　昌幸
          - 副部長　髙鉾　義嗣
            - 部員　大神会員
  - 監事
    - 岩城　隆宏
    - 藤原　豊和
    - 神田　憲明
    - 監事会
  - 相談役：井上 卓朗
  - 直前会長：阪口 雅教

出向理事

【神道青年全国協議会】
- 代　議　員：持田照久・石津隆康
- 時局対策員：荒井清志
- 遷宮啓発委員：一木真守

【神道青年近畿地区連絡協議会】
- 相　談　役：井上卓朗
- 理　　事：持田照久・花房兼輔
- 事業委員：荒井清志・小林義典
- 24年度事務局：多田佳史

【皇居勤労奉仕推進委員会】
- 委員長：荒井清志
- 事務局：髙鉾義嗣
- 委　員：野々村篤志

【かたりべまほろば】
- 団　長：花房兼輔
- 副団長：道上昌幸

【神宮大麻頒布推進委員】
- 委員：松井保樹・小林義典

奈良県神道青年会 活動報告及び計画（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

月	日	内容	場所
4月	9日	兵庫県神道青年会再建四十五周年記念大会	生田神社会館
	12～13日	遷宮広報研修会	神宮会館
	13日	執行部	橿原市
	15日	奈良県護國神社春季大祭助勤奉仕	奈良県護國神社
	16日	第十二回理事役員会	春日大社
		会計監査	春日大社
	19日	神道青年近畿地区連絡協議会第十一回事業委員会	中国新名菜敦煌
	25日	平成二十四年度定例総会	橿原神宮
		同懇親会	橿原観光ホテル
	27日	神道青年全国協議会第六十四回定例総会	神社本庁
5月	2日	執行部会	橿原市
	7日	神道青年近畿地区連絡協議会第五回役員会	有馬温泉
		神道青年近畿地区連絡協議会顧問･参与会	有馬温泉
	9日	第十三回理事役員会	大神神社
	17日	神道青年近畿地区連絡協議会第十二回事業委員会	中国新名菜敦煌
	25日	第三回勉強会	大神神社
	28日	執行部会	橿原神宮
	29日	神道青年近畿地区連絡協議会第六回役員会	ホテルオークラ神戸
		神道青年近畿地区連絡協議会平成二十四年度定例総会	ホテルオークラ神戸
	30日	神道青年近畿地区連絡協議会野球大会	あじさいスタジアム北神戸
6月	4日	第十四回理事役員会	橿原神宮
	11日	本土復帰四十周年奉告祭参列	沖縄県
	12日	沖縄戦全戦没者慰霊祭及び尖閣諸島諸問題早期解決祈願祭奉仕･参列	沖縄県護国神社
	29日	執行部会	橿原神宮
7月	2日	神道青年近畿地区連絡協議会第十四回事業委員会	大阪府神社庁
	5日	第十五回理事役員会	春日大社
	7日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第三十九回公演	春日大社
	10日	神道青年近畿地区連絡協議会第一回役員会	橿原観光ホテル
	25日	宮崎県神道青年会との親睦交流会	橿原市
	26～27日	禊･鎮魂錬成研修会	石上神宮
	26日	第四回勉強会	石上神宮
8月	5日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第四十回公演	橿原神宮
	6日	神宮京都奈良三神青野球大会	岡崎公園野球場
	9日	神道青年近畿地区連絡協議会第十五回事業委員会	大阪府神社庁
	20日	執行部会	橿原神宮
	23日	第十六回理事役員会	大神神社
	27日	奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会	ボウル富士･石上神宮参集殿
	29～30日	神道青年全国協議会夏期セミナー	國學院大學
9月	3～7日	皇居勤労奉仕「青垣奉仕団」	皇居･赤坂御所
	11日	神道青年近畿地区連絡協議会第十六回事業委員会	大阪府神社庁
	21日	第十七回理事役員会	橿原神宮
	24日	神道青年近畿地区連絡協議会第二回役員会	橿原観光ホテル
		神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会	橿原観光ホテル
	25日	南都聖和会との親睦交流会打合せ会	奈良市　ピアノ
	26日	皇室関連施設清掃奉仕	仙洞御所
	27日	執行部会	橿原神宮
10月	4日	神宮大麻暦頒布始祭参列	奈良県神社庁
		神宮大麻頒布推進委員会出席	奈良県神社庁
	5日	第五回勉強会	奈良市田原公民館
	12日	執行部会	橿原神宮
	17日	神道青年近畿地区連絡協議会第十七回事業委員会	大阪府神社庁
	18日	第十八回理事役員会	春日大社
	20日	宇太水分神社郷社例祭助勤奉仕	宇太水分神社
	21日	全國戦歿學徒追悼祭奉仕･参列	若人の広場
	22日	奈良県護國神社秋季大祭助勢	奈良県護國神社
	26日	奈良県神社関係者大会助勢	橿原神宮養正殿･神宮会館
11月	5日	南都聖和会との親睦交流会	東大寺ミュージアム
	7～8日	神道青年近畿地区連絡協議会東日本大震災復興支援活動	金華山黄金山神社
	13日	第十九回理事役員会	大神神社
	19日	神道青年近畿地区連絡協議会第三回役員会	奈良市　百楽
		神道青年近畿地区連絡協議会臨時総会･第二回連絡会	興福寺会館
12月	1日	会報「青垣」第四十九号刊行	
	3日	第二十回理事役員会	春日大社
		役員忘年会	奈良市　神仙境
		神宮大麻頒布活動	橿原市八木地区
平成25年			
1月		第二十一回理事役員会	
		臨時総会	
		新春互礼会	
	27日	国旗掲揚推進一･二七御堂筋パレード	大阪市
2月	11日	橿原神宮紀元祭助勤	橿原神宮
	25～26日	神道政治連盟奈良県本部本土復帰四十年記念奈良県戦没者慰霊祭参列	沖縄県
	28日	神宮大麻暦頒布終了祭参列	奈良県神社庁
		神宮大麻頒布推進委員会出席	
3月	6日	神道青年近畿地区連絡協議会第四回役員会	橿原ロイヤルホテル
		神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会	橿原ロイヤルホテル
	7日	神道青年近畿地区連絡協議会地区研修会	橿原考古学研究所他
	13～14日	神道青年全国協議会中央研修会	高知県
	19日	奈良県神社庁神職氏子合同研修会助勢	
	28日	神道青年近畿地区連絡協議会チャリティーゴルフコンペ	滋賀県

姉妹神青交流会

平成二十四年四月二十七日に史上初の姉妹神青となった宮崎神青と奈良神青の交流会が行われました。

当会の恒例行事である「禊鎮魂錬成研修会」に宮崎県神道青年会から串間会長以下四名のご参加を頂く事となり、この機会に初の交流会を開催しました。

また研修当日の朝からは、橿原神宮を始め神武天皇陵、多神社、大和神社等を参拝案内しながら研修場所である石上神宮まで向かいました。

次は当会が宮崎県にお邪魔する事を約束し、大変有意義な交流会と研修会を終えました。

姉妹神青締結之証

神武天皇御降臨ノ地（宮崎県）ト御創業ノ地（奈良県）ノ両県神道青年会ハ　古事記根（上巻千参百年ノ往時）ニ当タリ姉妹神青ヲ締結スル

故々ハ建国ノ吉ヲ慶ビ　国ヲ愛スル正シキ心ヲ養ヒ国体護持ノ柱石トナルベキ青年神職トシテノ本分ヲ全フシ更ニ会員相互ノ結束ヲ強クシ一致協力ノ下ニ国ノ発展ニ寄与シ以テ神青ヲ宣示ス

紀元二千六百七十二年　四月二十七日

第六十四回神道青年全国協議会総会ニ際シ神社本庁神社政策ニテ神道青年全国協議会会長会ノ許諾ヲスル

神道青年全国協議会　会長　大野清徳
奈良県神道青年会　会長　持田照久
宮崎県神道青年会　会長　串間祥亮

禊・鎮魂錬成研修会に参加して

去る七月二十六・二十七日、当会が主催し近畿地区の事業でもある「禊・鎮魂錬成研修会」が、石上神宮にて開催されました。今回は近畿各府県からの参加者に加え、本年四月に当会と姉妹神青を締結した宮崎県神道青年会串間会長以下会員四名を含めた、総勢三十名による研修会となりました。

研修の内容は標題の通り「禊」と「鎮魂」の実践でした。已に厳しくある姿勢、心身の鍛錬が日々の神明奉仕に活かされるものであり、参加者一同真剣な姿勢で研修に臨んでいました。二十六日夕刻また二十七日朝には拝殿にて鎮魂をさせて頂きましたが、頭の中を空にして自分自身と向き合うことは平素なかなか適わないもので、貴重な時間を経験しました。

二十六日の午後八時からは、㈱瀧川寺社建築の瀧川社長による「神社仏閣における宮大工の営繕仕事について」と題しての講演を拝聴しました。宮大工というと「古いものを古いままに」のようなイメージを持たれがちですが、施工していることは最先端の技術と緻密な計算を駆使しておられます。伝統建築の神聖な雰囲気を破壊することなく最新最善の工法を以て後世へ伝えていく努力を感じ、我々神職も、素晴らしい伝統の根幹を大切に残しつつ「常に改善」の心で全ての物事に取り組んでいかなくては、と強く思いました。

末筆ながら、会場をご提供下さり懇切丁寧にご指導賜りました石上神宮職員の皆様方のご厚情に感謝申し上げると共に、修了証を授与下さいました奈良県神社庁研修所各位に深く御礼申し上げます。

（大神　大月）

神道青年近畿地区連絡協議会　第一回連絡会

平成二十四年九月二十四日（月）奈良県神道青年会が当番で、神道青年近畿地区連絡協議会第一回連絡会が、橿原観光ホテルで開催された。

御来賓として奈良県神社庁長　河﨑宏様をはじめ、橿原神宮宮司　栃尾泰治郎様、奈良県神社庁事務局長　中川行夫様、神道青年近畿地区連絡協議会参与として本塚順二様、佐伯雅寿様の六名に御臨席戴いた。近畿地区各単位会から八十一名の会員が集まり、内奈良県からは三十一名の参加であった。

連絡会では、河﨑宏様よりご祝辞を戴き、当番県の奈良県持田会長が座長を務め、各単位会より活動報告が行われた。奈良神青は石上神宮での禊鎮魂錬成研修会等の報告を花房副会長が行った。

研修会では奈良県立橿原考古学研究所 所長 菅谷文則先生より「古事記と歴史　～考古学研究の限界と成果～」と題して、ご講演戴いた。プロジェクターで神々が描かれた絵巻物や挿絵、また遺跡の図面や発掘された土器などの写真を映しながら、考古学と神話や神社などの関係を、先生が経験された発掘内容にふれながら説明戴いた。

懇親会は、栃尾泰治郎様より激励のお言葉を戴き、中川行夫様の乾杯のご発声でスタート。近畿地区の行事としては五月二十九日の定例総会より半年ぶりで、久々に会う面々も多く、会場内は大いに盛り上がり、本塚順二様の中締で盛会の裡にお開きとなった。

本号刊行時には、十一月十九日の臨時総会並第二回連絡会も開催されているが、記事締め切りの都合で報告は次号としたい。

（橿原　多田）

今後の予定

一月二十七日
一・二七御堂筋パレード（大阪府）

三月六・七日
第三回連絡会並地区研修会

三月二十八日
チャリティーゴルフコンペ（滋賀県）

五月二十七日
定例総会

五月二十八日
野球大会

第五回勉強会
太安萬侶卿顕彰墓前祭

去る十月五日、奈良市田原地区において、太安萬侶卿顕彰墓前祭の斎行、第五回勉強会が実施された。当会より、持田会長以下計六名が参加した。

午前中、田原公民館の講座事業としておこなわれた、『「古事記」編者　太安萬侶の墓と墓誌を考える』という講演を、奈良芸術短期大学の前園実知雄教授より拝聴した。前園教授は、昭和五十四年、当墓の発掘調査を手掛けられた方であり、その調査研究のお話を始め、丁度講演の前日に橿原考古学研究所より記者発表された、墓誌の毛筆のかすかな痕跡の発見についてのお話もあり、大変興味深い講演会であった。

午後一時半よりは、田原の里の茶畑の広がる山中に鎮まる太安萬侶卿の墓前において、顕彰墓前祭が、秋晴れの爽やかな天候のもと斎行された。

私一木、井関会員が奉仕し、田原地区の方々、前園先生を始め午前中の講座参加者ら三十名程が、急斜面に鎮まる墓前に所狭しと参列し、盛大に厳粛に斎行された。特には当墓の第一発見者である竹西英夫さんが九十歳を超える御年ながら元気に拝礼されていたのが印象に残った。また、仏式では幾度か営まれているが、神式では初めてではないかということで、「よく御奉仕してくれました」と、地元の方々は、大変喜ばれていた。

その後は、太安萬侶卿の納骨寺である十輪寺にて法要が営まれ、午後三時半頃解散となった。

最後に今回斎行の経緯であるが、さかのぼる事一年前、当会より、「古事記」が太安萬侶卿により編纂され三〇〇年の記念の年にあたり、墓前祭を執り行ってはということを、田原地区まち創り推進協議会さんに提案したところ、快く受け入れられた。協議会の中尾義永さんが中心となり、種々ご尽力頂き田原地区の記念事業のとして開催される運びとなったのである。

（春日　一木）

災害支援報告
金華山黄金山神社 復旧支援活動

11/7 ～ 11/8

去る十一月七日から八日にわたり、神道青年近畿地区連絡協議会による宮城県金華山黄金山神社の復旧支援活動が行われた。北海道神道青年協議会からも五名加わり、総勢二十五名、奈良県神道青年会からは六名の参加となった。七日午後、鮎川港よりチャーター船に乗り、約二十分の船旅の後、金華山に上陸した。

まず、黄金山神社にて正式参拝を行い、一日も早い復興と一同の作業の安全を祈った。

正式参拝後、同社日野権禰宜により被災状況と作業内容について説明を受けた。金華山は先の大震災による地震、津波の被害と併せ台風十五号による被害も甚大であるとのことであった。我々はこれらの災害によって機能を失ったダムの土砂、岩等の撤去作業を二日間任された。作業は先行してこれに当たっていた静岡神青と共に、約五十人体制にて行った。順調に作業を続けていたが、八日の午後は悪天候により、作業の中止と金華山からの撤退を余儀なくされた。そのため、午後からは石巻地区の視察を行ったが、その景色は一年以上過ぎた今も、先の大災害の影響を伝えるに十分過ぎるものであった。また、その時我々に同行して下さった地元のバス運転手の方が、震災当時のことをお話下さったが、実際その土地に立って聴くそれらの話は大変心に重くのしかかった。

この視察後、午後六時頃我々は各々帰路につき、宮城県をあとにした。

最後に、金華山にて予定の作業日程を最後まで全うできなかったことは、大変残念であった。また、我々がこの未曾有の大災害の復興に対し、どれほどのことができているのかという不安と疑問を感じた。しかし、被災された方々から、感謝の言葉を戴くと、我々の力は微力でこそあれ、決して無力ではないのだと、そう気づかされた復旧支援活動であった。

（橿原　篠）

第三回勉強会 大神神社・三輪山登拝

5/25

去る五月二十五日に第三回勉強会が開催され、大神神社の御神体山である三輪山に登拝いたしました。当日は朝から雨が降っており中止が懸念されましたが、午後からは雨も上がり当初の予定通りに行うことができました。

午後一時に大神神社拝殿前に集合した後、大神神社の由緒と歴史、重要文化財である三ツ鳥居の説明を受け、実際に三ツ鳥居とその周辺にある瑞垣を見学させていただきました。

その後に狭井神社で正式参拝を受け、三輪山に登拝させていただきました。三輪山には磐座や摂社高宮神社、また禊に使用されている三光の滝があり、古来より多くの信仰を集め、それが現代まで続いていると再認識させられました。

この勉強会に参加させていただき貴重な経験が多々あり、数多くのことを学ぶことができました。また他の神社の方々と交流する機会を与えていただきありがとうございました。次回も是非参加させていただきたいです。

（橿原　青木）

神青近畿地区野球大会

5/30

去る五月三十日、神戸市のあじさいスタジアム北神戸において、初夏を思わせる爽やかな晴天の下、百名を超える青年神職が参加して、平成二十四年度神道青年近畿地区連絡協議会　野球大会が開催され、奈良県神道青年会からは持田会長以下十四名が参加した。

組み合わせ抽選の結果、奈良県の初戦の相手は前回準優勝の京都府となった。近年は低迷が続く奈良県だが、即戦力ルーキーと呼び声の高い鈴木投手（大神）、強豪大阪から移籍の林選手（荒神社）を始めとする新戦力が加入した今回は、上位進出が大いに期待される布陣であった。

林選手の先頭打者本塁打で火蓋が切られた京都戦は、不動のホットコーナー村上選手（橿原）をはじめとする手堅い守りで先発鈴木投手を盛り立て、一点を争う好ゲームとなったが、最終回満塁のピンチを三振でしのいだ我らが奈良の二対一での勝利であった。

続く準決勝の和歌山戦では、まだまだエースの座は譲らないとばかりに、多田投手（橿原）が先発。序盤からリードを許す苦しい展開となるが、相手守備の乱れにも乗じて、じわじわと追い詰め、ついに最終回逆転サヨナラ勝ちとなった。久々の決勝進出という快進撃に沸く奈良であったが、逆のブロックからは三連覇中の王者大阪が、対兵庫戦11対1、対滋賀戦19対1と圧倒的な強さで勝ち進んできた。

一歩間違えば大量失点という強力大阪打線に対するはやはり鈴木投手。先制を許すも後続を絶ち初戦以上の好投を見せる。打線もそれに応え一時は逆転し、決勝戦にふさわしい一進一退の好ゲームとなった。

最後は守備の乱れから大阪に再逆転を許し、追撃及ばず三対四の惜敗となったが、試合後に審判団から「ナイスゲーム」という声が上がるほどの良い試合であった。試合後、今回で引退を表明していた鉄人村上選手の胴上げが行われたが、引退を惜しむ声があちこちから上がった。

全試合終了後、神戸フルーツフラワーパークに場所を移した懇親会では、激戦の汗を流した青年神職が「近畿はひとつ」の言葉通り、府県を越えて懇親を深めた。各府県のMVPが発表され、奈良からは鈴木投手が受賞した。

この準優勝という結果に満足せず、当番県となる次回の開催地優勝という誓いを立て神戸を発ったのであった。

（春日　岡）

沖縄戦全戦没者慰霊祭及び尖閣諸島諸問題早期解決祈願祭

6/12

六月十二日、神青協が主催し沖縄県護国神社にて斎行された「沖縄戦全戦没者慰霊祭及び尖閣諸島諸問題早期解決祈願祭」へ、祭員として奉仕させて頂きました。祭典は、沖縄県護国神社の加治禰宜を斎主とし、六十名を超す全都道府県の神青会員が祭員伶人となり、全国の神青会員百名以上が参列し盛大に斎行されました。

当日の那覇は梅雨空で湿度が高く、神社への移動も、一時間の習礼中も、一時間半の祭典中もたいへんな暑さで、全身汗だくでした。沖縄戦終結は昭和二十年六月二十三日頃と云われますが、終結頃の沖縄はこのような過酷な気候条件であったのかと実感しました。

祭員には何かしらの所役が割り当てられ、私は献饌手長二（左側）を奉仕しました。全国の若手神職が心ひとつに祭典を奉仕することは大変意義深く、まして沖縄県、日本の領土のこと、平和について等を皆で改めて考える契機ともなりました。

平和とは何か。「平和のための戦争」「戦争がもたらす平和」など言われます。友好一色で世界平和が保たれるのであれば素晴らしいことですが、どの国でも外国による侵略を食い止めるための防衛処置を行っているのが当然のことです。沖縄県の尖閣諸島を国有化したところ隣国は猛反発し大使公用車襲撃事件や大使館への投石、排斥運動や略奪行為を繰り広げました。それは隣国国民なりの愛国心なのかもしれませんが、日本人の愛国心はいつから失われたのでしょう。領土や国民・平和を守るために散華された方々が現況を知ったら、何と仰ることか。

先の大戦で多くの方々が犠牲になり、さらに現在も沖縄を危険に晒しつつ、その上で我々は今の平和な生活を享受できています。今ある沖縄の人々の苦しみを、決して他人ごとではなく全日本国民が考えていかねばならない時期に来ています。

（大神　大月）

神宮・京都・奈良 三神青親睦野球大会

8/6

八月六日、平安神宮前のグラウンドにおいて、神宮、京都、奈良の三神青による親睦野球大会が開催されました。私は、野球経験があるためお誘いをいただき参加することとなりました。私は、投手として試合に臨みました。試合内容としては、惜しくも二連敗となりましたが、チーム一丸となり一致団結して全力を出し切り戦ったので良い試合であったと思います。やはり、スポーツを通じて、お互いに親睦を深めることは、大変素晴らしいことと改めて実感しました。私自身、はじめは緊張していましたが、回を重ねる毎に徐々に緊張がとれていき、何より楽しく野球をすることが出来ました。当日は、体調を崩してしまい思うような結果が出せなかったことが心残りですが、試合を通じて普段では、なかなかお会い出来ない県内外の神社関係者の皆様方と楽しく交流を深めることが出来、大変貴重な時間を過ごせたと共に、このような親睦野球大会に参加させていただきまして誠にありがたく思います。そして、次の大会では、是非とも、優勝の二文字を奈良に持ち帰りたいと思います。

（大神　鈴木）

奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会

8/27

去る八月二十七日、田原本町のボウル富士にて奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会が開催され、持田会長以下二十一名が参加した。

今回はボーリングでの対決となり、大神・橿原・春日・諸社混成の四チームでの団体戦と、個人総得点で評価する個人戦とで二ゲーム行われた。

まづ、会長の始球式より各レーンでゲームが開始、ストライクやスペアを出し喜ぶ者。ガーターでがっかりする者、笑う者。途中で機械の故障もありハラハラする一面もあったが無事に試合をおえた。

試合結果は、団体の部優勝は強運の大神チーム。準優勝は橿原チームとなった。又、個人の部では春日大社の鈴木会員が最優秀賞を手にした。しかしながら、ストライクを誰よりも多く決めたのは男性会員ではなく、橿原神宮の小林巫女であった事に、参加者一同驚かされた。

試合後の懇親会は石上神宮参集殿にて催され、社務を終え駆け付けた四名の会員を併せ、二十五の会員にて全会を行った。この席上にて大神チームに盾の贈呈、それぞれの個人賞の贈呈が行われ、和やかな雰囲気の中、参加者同士膝を交えて親睦を深められた。

（石上　道上）

京都皇室関連施設清掃奉仕

9/26

去る九月二十六日、恒例の皇室関連施設清掃奉仕が雲一つない晴天のもと開催された。この度の清掃場所、京都御苑　大宮仙洞御所に、当県より持田会長以下三名、近畿地区二府四県より三十二名、計三十五名の会員での奉仕となった。

改服後、大宮仙洞御所北側奥へ足を進めた。その二帯は鬱蒼と木々が茂り落ち葉や枝などが散乱していたが、会員一同は熱心に手際よく清掃に励み瞬く間に綺麗になった。清掃後、職員の方より天皇陛下、皇后陛下、皇太子殿下、皇太子妃殿下の京都府への行幸啓の際の宿泊に使用されている大宮御所、日本庭園の広がる仙洞御所をご案内頂いた。御常御殿の前の庭には慶事・吉祥のシンボルである紅梅・白梅、竹林、松の木が植樹されていた。

目標に向かって会員同士、夢中で清掃奉仕する事で結束をより固められたと感じた。

（大神　野々村）

神宮大麻暦頒布始祭にて神宮より表彰される

10/4

平成二十四年十月四日(木)、新しく橿原の地に竣工なったばかりの美しい奈良県神社庁において、毎年恒例の神宮大麻暦頒布始祭が斎行された。新庁舎建設と共に真新しくお祀りされた神殿にて、檜材の初々しく香るなか、厳かに祭典が行われた。

毎年の恒例行事ではあるが、本年は当会にとって特別な年であった。当会が神宮より表彰の栄を預かったのである(なお、表彰状の授与と共に記念品の贈呈もあった)。

これは、明治五年に明治天皇の思し召しを仰ぎ、神宮大麻を全国各戸に頒布してゆくための制度が整えられてより、本年は百四十周年の節目であった。これを受けて当会も毎年頒布推進活動を行っていることから、その功績が認められたものである。

表彰状

奈良県

奈良県神道青年会殿

貴会は夙に神宮崇敬の念篤く多年に亘り神宮大麻の頒布に協力し神徳宣揚に尽された功績は実に多大であります

仍て神宮大麻全国頒布百四十周年の春年にあたり記念品を贈り之を表彰します

平成二十四年　九月十七日

神宮大宮司　鷹司尚武

神宮大麻暦頒布始祭に続いて、奈良県神社庁新庁舎をバックに記念撮影。その後、橿原神宮会館へと場所を移して神宮大麻頒布推進委員会が開催された。

第六十二回神宮式年遷宮を来年に控え、参加者一同は神宮そして神宮大麻の意義を宣揚する志を改めて確かめ合い、散会した。

南都聖和会との親睦交流会に参加して

11/5

十一月五日(月)、東大寺ミュージアム内にて南都聖和会との親睦交流会が開催された。当日は神道青年会からは二十一名が参加した。

昨年開館した東大寺ミュージアムには、法華堂のご本尊であり大変美しい仏像として有名な国宝「不空羂索観音立像」など、貴重な宝物の数々が展示され、東大寺の皆様方にご説明いただき、普段なかなか間近で見られない展示物を皆食い入るように見入っていた。また展示されている品もさることながら、展示会場の雰囲気やデザインなど大変素晴らしかった。

ミュージアム内の見学の後、同所内においての懇親交流会では、長年ご参加されている聖和会の方からの思い出話など、時が経つのも忘れ、両会参加者共和やかに懇親を深めていた。

年に一度のこの交流会に私は三年連続で参加させていただいており、毎年お話しさせていただく聖和会の方もその内容も違い、毎回新たな発見をさせていただいている。今後も両会の交流が続き、互いに切磋琢磨出来る関係であればと思う次第である。

（大神　後藤）

新入会員紹介

①生年月日　②好きな言葉
③自分を動物に例えると
④趣味　⑤出身都道府県

大神神社

中西（なかにし）　俊介（しゅんすけ）

①平成元年四月二十五日
②明日は明日の風が吹く
③亀
④ゲーム・アニメ
⑤三重県

大神神社

鈴木（すずき）　翔太（しょうた）

①平成二年一月五日
②一期一会
③犬
④野球
⑤愛知県

橿原神宮

伊藤（いとう）　英佑（えいすけ）

①昭和六十三年四月二日
②慎みて怠ることなかれ
③アライグマ
④サイクリング
⑤広島県

橿原神宮

青木（あおき）　勇翔（ゆうしょう）

①平成二年一月七日
②堅忍不抜
③ウマ
④野球観戦
⑤三重県

談山神社

黒住（くろすみ）　拓哉（たくや）

①昭和六十三年九月二十日
②人生はツーリング
③猫
④バイク、自動車、サバイバルゲーム、なぎなた
⑤奈良県

奉務神社紹介

都賀那岐神社（旧村社）

宇陀市榛原山路、伊那佐山の山頂に鎮座。伊那佐山とは「古事記」「日本書紀」神武東征の条にて神武天皇が「楯並めて　伊那瑳の山の　木の間ゆも　い行き瞻らひ　戦へば　我はや飢ぬ　島つ鳥　鵜飼が徒　今助けに来ね」と御製を詠んだ山である。

「延喜式」神名帳の宇陀郡「都賀那木神社」とされる。ツガナキについては「日本書紀」斉明天皇六年九月五日条に、百済の軍が新羅との戦役に使った握り棒（ツカナギ）とする説、「日本書紀」応神天皇二十年九月条の都加使主（ツカノオミ）のこととする説などがある。「大和志」に「都賀那木神社」として「在山路村上方伊那佐山今称貴布禰十三村共預祭祀歳旱祈雨有応」と記されているように、近世、貴船神社と称し、祈雨・止雨の神を祀っていた。旱魃の際、ダケマイリと称して近年まで「提灯を下げて皆で参った」とは古きを知る老氏子の弁である。

大正初年、山路・および沢・大貝・石田の六柱神社と母里の斉神社が合祀された（戦後分遷）。

祭典は四月（御岳会式）と十月の二回。特に春の祭典には先述の五大字の役員と山路の氏子、そして神職が山頂まで徒歩にて参り、斎行している。

（八咫烏　小林）

編集後記

会報「青垣」四十九号をお届けいたします。先ずはご寄稿、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

東日本大震災をはじめ、大きな自然災害に見舞われたことをうけ、昨年より全国各地から多くの団体が被災地で復旧支援活動に従事しておられます。当会といたしましても金華山黄金山神社復旧支援活動等、実際に現地で汗した会員もおられますし、また個人で継続的に支援を行っている方もおられることと思います。私自身はといえば様々な都合を理由に具体的な活動を行えておりません。同様に「想いはあれど動けず」という方は少なくないのではと（誠に勝手ながら）推測いたします。

会報とは、会の活動内容を共有するための道具です。諸用で参加できなかったとしても、会報に寄せられた報告に耳を傾け、心を寄せて、今後どのように実践（参加）につなげていくかについて考える―。私自身への弁解のようではありますが、この会報が皆様の「実践」に少しでも貢献できたなら幸いです。

今後ともご指導ご鞭撻お願い申し上げます。

（広報部　小林）